

県内におけるスイートピーの生産について

- ・神奈川県は、日本のスイートピー切り花栽培発祥の地であり、昭和初期から本格的な営利栽培が始まった。
- ・相模川流域の肥沃な土壌がスイートピー栽培に適していることや、大消費地に隣接する立地条件等により昭和 50 年代には全国一の産地だった。
- ・その後、品質保持剤の普及により花持ちが飛躍的に伸びたため、新しい産地が形成され、市場における産地間競争が激化した。そこで、産地支援として県オリジナル品種の育成を昭和 62 年から開始した。
- ・市場に出回っているスイートピーはピンク、淡い紫等の単色花がメイン。

育成過程

- ・刷毛目模様の品種を育成するため、平成 9 年から交雑育種に取り組んだ。目標とする形質をもったものを選抜するとともに、数回の交雑を行って模様色を増やし、‘スプラッシュレッド’、‘スプラッシュブルー’及び‘スプラッシュパープル’を育成した。
- ・今回、平成 28 年に生産者ほ場での試験を実施し、現地適応性、市場性について検討を行った結果、花色、模様の形及び色に特徴があり、収量性も十分であることから、‘スプラッシュヴィーノ’と命名し、平成 29 年 8 月 7 日に品種登録を出願した。

これまでの県育成品種

スプラッシュブルー



スプラッシュパープル



スプラッシュレッド



“スプラッシュシリーズ” 花弁両面の刷毛目模様が特徴

アルテミス



湘南オリオン



リップルピーチ



リップルラベンダー



リップルショコラ



“リップルシリーズ” 縁取りと吹きかけ模様が特徴

1月21日はスイートピーの日

・全国の花の生産者、生花店、園芸店などで構成する「日本スイートピーの会」が制定。・女性に好まれる「春の花」の代名詞であるスイートピーをより多くの人に楽しんでもらうのが目的。

・日付はこの時期が一年でいちばん香りが豊かできれいに輝くことと、花弁が左右対称で3種類の花びら（旗弁、翼弁、舟弁）からなりそれぞれ1枚、2枚、1枚あることから1月21日とした。

（一般社団法人日本記念日協会HPより引用）

神奈川県は「日本スイートピーの会」に未加入です。